

# 地域再生計画

## 1. 地域再生計画の名称

津波災害に強い輸送拠点づくり

## 2. 地域再生計画の作成主体の名称

兵庫県、南あわじ市

## 3. 地域再生計画の区域

南あわじ市の区域の一部（福良港及び灘漁港）

## 4. 地域再生計画の目標

### 4-1 地域の現況

南あわじ市は、兵庫県南部の淡路島南端に位置しており、南東には紀伊水道を通じて太平洋に、南西には鳴門海峡を挟んで徳島県鳴門市に、西には播磨灘にそれぞれ面している。市域は、北部の先山山地、南東部の諭鶴羽山地に囲まれ、西部の二級河川三原川河口に平地が広がっている。諭鶴羽山地の南東には中央構造線が走り、急峻な地形で海に面しており、4.6km沖に沼島がある。

淡路島三市及び南あわじ市の人口は、それぞれ140,166人、49,023人となっており、ピーク時の人口226,890人（昭和22年）、73,581人（昭和25年）から約38%の減少となっている。計画対象区域の福良地区は、5,137人、灘地区は656人、沼島地区は488人となっている。

南あわじ市では、神戸淡路鳴門自動車道を通じて神戸・阪神地域へ約60分、大阪へ約90分という良好なアクセスを活かし、温暖で肥沃な三原平野では三毛作が行われ、タマネギや米、レタスなどが生産されている。沿岸では、播磨灘や紀伊水道で水揚げされる魚介やノリ、ワカメなどの養殖が盛んに行われ、京阪神地域の食の供給源の役割を担っている。特に近年は、福良湾で養殖される「三年トラフグ」や、沼島周辺で水揚げされる「沼島のハモ」、「沼島のキアジ」などが高級魚として取引され、ブランド化の取り組みが実を結びつつある。

南あわじ市には四季折々の食や市内に点在する温泉、海洋レジャーを楽しめる施設が数多く立地し、京阪神地域から気軽に訪れることができる観光地となっている。中でも、福良港には世界でも珍しい「鳴門海峡のうずしお」を船上から間近で観光するための観潮船が発着しており、約五〇〇年の歴史をもつ「淡路人形浄瑠璃」を上演する「淡路人形座」が隣接するなど、地域の観光拠点となっている。また、沼島は、「国生み伝説」を物語る「おのころ神社」を有し、「上立神岩」や「屏風岩」などの奇岩とも相まって、「神秘の島」の雰囲気醸し出し、沼島周遊船などで観光地として人気が高い地域となっている。

計画対象区域への主要アクセス路として、本土・神戸市から四国・鳴門市へ、明石海峡大橋と大鳴門橋を通じて神戸淡路鳴門自動車道が淡路島を縦断しており、市域とは西淡三原IC、淡路島南ICで結ばれている。また、島内の幹線道路として、神戸淡路鳴門自動車道と並行して、国道28号が福良地区から淡路島東岸を経て、洲本市、淡路市へ至っており、淡路島西岸には県道31号（福良江井岩屋線）、市中心部から淡路島南岸を経て洲本市へは県道76号（洲本灘賀集線）などの主要地方道が整備されている。臨海部には、古

くから四国との交易・物流や漁業の拠点として港湾や漁港が整備されてきており、市域には、地方港湾福良港、湊港、第二種漁港の沼島漁港や灘漁港、丸山漁港などがある。離島である沼島へは、淡路島側の灘漁港と定期旅客航路で結ばれ、住民や観光客の貴重な足となっている。

福良港では、阪神・淡路大震災の経験を踏まえ、地震や風水害などの災害時に船舶による淡路島内への物資輸送を行うため、耐震岸壁が整備されている。また近年、福良地区では、南海トラフ地震・津波に対する地域の防災対策をまちづくりに活かし、「津波防災日本一のまちづくり 福良」として、津波防災ステーション（愛称：うずまる）を核とした地域づくりに取り組んでおり、防災学習施設は観光客にも好評を得ている。

#### 4-2 地域の課題

南あわじ市では、昭和 30 年代から人口が減少の一途を辿り、少子化・高齢化が著しい。臨海部の福良地区や灘地区、沼島地区は、急峻な地形で平地が少なく、漁業や観光、造船業が地域の基幹産業であるが、これらの地区においても、高齢化率が 42%と非常に高く、観光振興策や漁業におけるブランド化、六次産業化などの取り組みが成果を上げつつあるが、人口や地域社会、産業の維持が課題となっている。

とりわけ、これらの臨海部地域では、観光施設や宿泊施設への直接的な効果だけでなく、物販や飲食業、これらを通じた農水産業への波及など、地域産業や雇用への影響が大きい観光業の維持・振興が不可欠である。兵庫県、南あわじ市では、徳島県や鳴門市等の行政や民間団体等と連携して、「鳴門の渦潮」を世界遺産に登録するための推進団体を組織し、観光の起爆剤となることを目指すほか、沼島においても、沼島水軍を彷彿とさせる沼島八幡神社春祭りや周囲の奇岩を巡るクルーズなどにより、観光客の増加と周辺産業の活性化に向けた取り組みが必要である。

福良地区では、年間約 17 万人が訪れるうずしお観潮船や淡路人形座、全国から小学生など年間約 1 万 7 千人が来館する津波防災ステーション（愛称：うずまる）での防災学習が人気であり、観光客は近年増加し、南あわじ市南部の観光の拠点となっている。

一方、沼島地区は観光資源が多数存在し人気のある観光地であり、地域活動の総合的拠点となる沼島総合観光案内所「吉甚〜よしじん〜」の開設等により観光客数の増加を目指しているが、より一層 PR することで観光資源の魅力を最大限に生かし、南あわじ市南部の観光の拠点になる可能性を秘めている観光スポットである。

今後も観光客数の増加が見込まれる福良地区において、沼島地区の魅力も合わせて PR することにより、福良地区から沼島地区への観光ルートの確立等を行い、灘漁港と沼島漁港を結ぶ沼島航路を利用した観光客数の増加を図り地域を活性化させる必要がある。

また、日本各地で地震や風水害が頻発する中、南あわじ市域においても、観光地の安全・安心の確保とその周知が課題であり、中でも、近い将来発生が懸念されている南海トラフ地震では、震度 7 の地震や最大 8.1メートルにも達する津波が想定されており、観光客が多い臨海部では、津波水位の低減や地震被害の軽減に加え、観光客への情報伝達や災害後の早期孤立解消への取り組みが急務である。

そこで福良港において防波堤の改良を行うことで、津波に対してより安全で魅力ある港となり防災学習や福良うずまるフェスタ、津波防災フォーラム等の一層の観光客数の増加や、それに伴う観潮船や淡路人形座等の観光客数の増加を図り地域を活性化させる必要がある。

また福良港、灘漁港の二つの港を同時に整備し、併せて観光客への避難場所の周知や防

災行政無線の整備を行い災害時の観光地における孤立の懸念を軽減することで安全・安心の確保を行い南あわじ市における観光客数の増加を図る必要がある。

さらに福良港は、湾状の静穏な水域を活かして災害時の防災拠点として位置づけ耐震強化岸壁を整備しているが、地震や津波により、防波堤の被災や航路の閉塞、漁船の漂流等が生じれば、その後の波浪や風水害の際に、防災拠点としての役割を果たせず、福良地区や南あわじ市域だけでなく、淡路島全域での災害復旧や復興の支障となる恐れがある。

沼島地区を結ぶ定期航路は、唯一の公共交通機関で代替手段がないことから、地震・津波により灘漁港の旅客施設が被災すれば、復旧まで長期間にわたって、交通機能が絶たれ、人の往来や物資の輸送など沼島地域の住民の生活や産業が成立しない可能性がある。観光客数が増加傾向にある中で定期航路が確保出来ない場合には沼島地区の観光産業への打撃が非常に大きく、それに伴い沼島地区の急激な人口流出を招く恐れがある。

#### 4-3 計画の目標

(目標1) 南あわじ市南部の観光拠点の入込み客数の100万人突破

観光客数 912千人(平成28年度)→1,000千人(令和2年度)

(目標2) 福良港の防波堤(改良)による港湾施設の被害軽減と航路閉塞の防止による臨海部の防災拠点の機能確保

災害発生時の荷役稼働率 75.7%(平成28年度)→97.5%(令和2年度)

### 5. 地域再生を図るために行う事業

#### 5-1 全体の概要

福良港では、地震や津波に対応した防波堤の改良を実施し、防波堤の被災や航路の閉塞を防ぐとともに、海上の漂流物による陸域への被害を軽減する。また、灘漁港では、沼島航路の旅客船係留施設を地震・津波に対して安全な構造に改良する。

これらの事業により、観光客の安全・安心を確保するとともに、福良地区の災害時輸送拠点の確保や、既に改良済みである沼島漁港の係留施設とあわせて災害時の沼島航路の維持を図る。

#### 5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

(1) 地方創生港整備推進交付金【A3010】

〔施設の種類の事業主体〕

- ・港湾施設(福良港) 兵庫県
- ・漁港施設(灘漁港) 南あわじ市

〔事業期間〕

- ・港湾施設 平成28年度～令和元年度
- ・漁港施設 平成29年度～令和元年度

〔整備量〕

- ・港湾施設 外郭施設
- ・漁港施設 係留施設

〔事業費〕

- ・総事業費 818,500千円
- ・港湾施設 618,500千円(うち交付金 247,400千円)

・漁港施設 200,000 千円（うち交付金 100,000 千円）

(2) [事業の実施状況に関する客観的な指標及び評価の方法]

(平成/年度)	基準年	H28	H29	H30	R1	R2
指標 1 南あわじ市南部の観光拠点 の入込み客数	912 千人	912 千人	938 千人	968 千人	988 千人	1,000 千人
指標 2 災害発生時の臨海部の防災 拠点の荷役稼働率の確保	75.7%	75.7%	83.1%	90.5%	94.8%	97.5%

[事業が先導的なものであると認められる理由]

港湾及び漁港を一体的に整備することにより、個別の整備に比べて、地域が一体となった効率的な整備が可能となり、「南あわじ市における津波災害に強い輸送拠点づくり」という地域再生の目標達成が実現可能という点で、先導的な事業となっている。

### 5-3 その他の事業

地域再生法による特別の措置を活用するほか、「鳴門海峡の渦潮の世界遺産登録への推進」、「観光資源を組み合わせた防災意識の向上」、「南あわじ市域における南海トラフ地震に伴う津波への対策」、「津波からの避難場所の確保」、「地域の防災意識の向上」、等を達成するため、以下の事業を総合的かつ一体的に行なうものである。

#### 5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当無し

#### 5-3-2 支援措置によらない独自の取組

##### (1) 鳴門海峡の渦潮の世界遺産登録への推進

内容 世界でも特異な自然現象である鳴門海峡の渦潮について、世界遺産への登録を推進するため、渦潮世界遺産登録推進事業、世界遺産登録学術調査事業、渦潮世界遺産登録 PR 事業を実施している

事業主体 兵庫県、南あわじ市、徳島県、鳴門市他

事業期間 平成 26 年度から

##### (2) うずまるフェスタ、津波防災フォーラム

内容 地域住民や観光客等の防災意識の向上のため防災フェスタや津波防災フォーラムを実施

事業主体 福良地区防災フェスタ実行委員会

事業期間 平成 23 年度から

##### (3) 福良港海岸高潮対策事業

内容 津波防波堤の整備（海岸保全施設）、防潮堤未整備区間の整備、陸閘・水門等の閉鎖操作の自動化

L1 津波 避難を前提に浸水被害を軽減

L2 津波 レベル2津波水位をレベル1津波水位並に低減し、浸水被害を軽減

事業主体 兵庫県

実施期間 平成28年4月～令和6年3月

(4) 沼島漁港水産生産基盤整備事業等

内容 港口水門、防潮堤未整備箇所の整備、防波堤の改良、陸閘の自動化、避難支援施設等の整備

事業主体 兵庫県

事業期間 平成28年4月～令和6年3月

(5) 地域の要望に合わせた避難路整備事業

内容 避難路、太陽光避難灯等の整備

事業主体 南あわじ市

事業期間 平成17年度から（地域の要望に応じて適時対応）

(6) 福良地区避難訓練

内容 避難が困難な時間帯（早朝、夜間）を想定した地域が主体となった避難訓練

事業主体 福良地区自主防災会等

事業期間 適宜

6. 計画期間

平成28年度～令和元年度

7. 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

4に示す地域再生計画の目標については、計画期間の中間年度及び計画年度終了後に兵庫県、南あわじ市が必要な調査を行い、速やかに状況を把握する。

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

	(基準年度)	平成30年度 (中間年度)	令和2年度 (最終目標)
目標1 南あわじ市南部の観光拠点の入込み客数 100万人突破	平成28年度 N=912千人	N=968千人	N=1,000千人
目標2 災害発生時の臨海部の防災拠点の荷役稼働 率の確保	平成28年度 75.7%	90.5%	97.5%

(指標とする数値の収集方法)

項 目	収集方法
南あわじ市南部の観光拠点の入込み客数	南あわじ市商工観光課へのヒアリングにより
臨港部の防災拠点の荷役可動率の確保	整備に伴う荷役可動率の効果検証により

・目標の達成状況以外の評価を行う内容

1. 事業の進捗状況
2. 総合的な評価や今後の方針

#### 7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

4に示す地域再生計画の目標については、中間評価及び事後評価の内容を、速やかにインターネット（兵庫県港湾課、南あわじ市水産振興課のホームページ）の利用により公表する。